

第237回鳳雛講座 令和5年7月5日(水)

講師は、JAあきた北青年部部長の角森繁永（かどもりとしのり）さん、同じく副部長の佐藤岳杜（さとうたけもり）さん、農家の石垣隆稀（いしがきりゅうき）さんが務めてくださいました。角森さんは「奥が深い農業についてJA青年部の活動紹介」、佐藤さんは「スマート農業の現在・未来」、石垣さんは「地元大館に戻り、農業を始めるまでのストーリー」をメインに、お話ししてくださいました。将来農業に携わろうと考えている生徒も、違う職種を考えている生徒も、熱心に聴き入っていました。講話後には、積極的に質問したり感想を述べたりする一中生の姿が見られ、充実した鳳雛講座となりました。

○講話の主な内容

【角森 繁永さん】

- ・農業は「食」を支え、地域を守る仕事である。
- ・しかし人手不足。3Kのイメージが原因か「きつい きたない きけん」
- ・JA青年部は、20歳～40歳代の若手農業者が多い。
- ・地域、想い、未来「農でつなぐ」をスローガンに活動している。

【佐藤 岳杜さん】

- ・農業者の高齢化と減少が課題であるが、スマート農業が進んできた。
- ・スマート農業＝農業×最先端技術（主にドローン）
- ・3K「きつい きたない かつこわるい」から「かつこいい農業」に。
- ・生徒の皆さんには、自分のやりたいこと、今できることを精一杯楽しんでほしい。

【石垣 隆稀さん】

- ・上川沿小学校出身。当時は「中山の天使」と呼ばれていた。
- ・果樹農家生まれ。いずれ継ぐだろうと考え、北鷹高校生物資源科へ。
- ・北海道で農業に3年間携わる。3年前に大館へ戻る。
- ・北海道では先輩方にお世話になったが、今はすべて一人でやらなければいけない。それが収入に直接影響する。より熱心に働くようになった。
- ・農業で、地元大館に貢献したい。







